

2025年11月23日 コロサイ4：2-18

説教題 「神の国のために働く同労者」

序 神の国の慰めはどこにあるのか

ルカ 17:11 イエスはエルサレムへ行かれるとき、サマリヤとガリラヤとの間を通られた。

17:12 そして、ある村にはいられると、十人の重い皮膚病人に出会われたが、彼らは遠くの方で立ちとどまり、

17:13 声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と言った。

17:14 イエスは彼らをごらんになって、「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい」と言わされた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。

17:15 そのうちのひとりは、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめたたえながら帰ってきて、

17:16 イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。

17:17 イエスは彼にむかって言われた、「きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。

17:18 神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか」。

17:19 それから、その人に言われた、「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」。

17:20 神の国はいつ来るのかと、パリサイ人が尋ねたので、イエスは答えて言われた、「神の国は、見られるかたちで来るものではない。

17:21 また『見よ、ここにある』『あそこにある』などとも言えない。神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ」。

皆様おはようございます。

朝晩は本当に冷え込んでまいりました。氷点下の気温になるのも時間の問題ですが、皆様お元気にお過ごしでしたでしょうか。

私はこの度、私の両親の所属いたします、日本基督教団広島教会の金明淑牧師のお誘いをいただきまして、『イエスのように仕えなさい サーバント・リーダーシップ』という本をお書きになられました韓国の柳聖俊牧師にお会いし、サーバント・リーダーシップについて先生と共に学ぶ韓国の教会の先生方のお働きを見学させていただきました。日本からは日本基督教団更新伝道会というメソジスト派(18世紀にジョン・ウェスレーによってイギリスに始まったプロテスタントの中のグループ・信仰の覚醒や宣教の前進、信仰の実践における社会的責任を重視し、それに至る靈性「スピリチュアリティ」の向上を祈り求める)の志を共有する東京神学大学を卒業された先生方とご一緒させていただき、日本からは総勢10名ほどの訪問団でした。現地では多くの牧師の方々からの歓迎を受け、カフェ伝道や行政か

らの委託を受けての図書館や学童保育の実践、ご自分で仕事をしながら障がいを持つ子供たちへの特化した牧会の実践など、多岐にわたっていかに教会に足を運ぶことのない方々へ福音を伝えていくのかを祈り求める方々の実践のケースを学ばせていただきました。巨大なビルを擁する教会で、体育館のように広い礼拝堂を、文字通り体育館としてスポーツ施設として開放して地域の子供たちの居場所を作ったり、オーケストラを結成したり、放課後の学校を運営してまさしく一つの学校のような活動は圧巻でした。

今日の聖書にもありますように、「今の時を生かして用い、そとの人に対して賢く行動しなさい。いつも、塩で味つけられた、やさしい言葉を使いなさい。そうすれば、ひとりひとりに対してどう答えるべきか、わかるであろう。」という「地の塩、世の光」という私たちの存在意義が問われているように思います。

4:2 目をさまして、感謝のうちに祈り、ひたすら祈り続けなさい。

祈り続けなさい、祈ってほしいと、祈りが強調され、コロサイの教会への勧めと、パウロ自身のための祈りの要請とが重ねてしたためられています。

目を覚ましてとは、警戒注意して、鋭く観察してという意味であり、そのように注意して感謝して祈り、ひたすら祈り続けるようにとパウロは語ります。

1 テサロニケ 5:16 いつも喜んでいなさい。

5:17 絶えず祈りなさい。

5:18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。

祈りと言いますと、願い求めを神様に知っていただくということが思い浮かびますが、まず感謝をもって祈るということが素晴らしいことであることが聖書には書いてあります。

ピリピ 4:6 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

4:7 そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。

私たちが主に選ばれ、贖いを頂いて神の子とされ、愛する御子イエス様の名によって祈るならば何でも聞かれるということはなんという特権でしょうか。このように、私たちが祈ることが出来るということ自体が感謝に極まれることなのです。そしてその後に祈り求めを主に捧げるわけですが、ここにとりなしの祈りがあります。

4:3 同時にわたしたちのためにも、神が御言のために門を開いて下さって、わたしたちがキリストの奥義を語れるように(わたしは、実は、そのために獄につながれているのである)、

4:4 また、わたしが語るべきことをはっきりと語れるように、祈ってほしい。

神様が御言葉のために門を開いてくださり、わたしたちがキリストの奥義を語れるように。わたしのが語るべきことをはっきりと語れるように。

そうですよね、私もまたこの講壇で語るべきことをしっかりと語ることが出来るように、神様が御言葉のために天の門を開いてくださってお導きくださいというのは私の切実な祈りでもあります。そして私たちが日常の生活を送る上でも、何を語るのか、父なる神様のお導きを切に祈るということがあるのではないかでしょうか。

2 テモテ 2:15 あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない鍊達した働き人になって、神に自分をささげるように努めはげみなさい。

(新改訳聖書) 2:15 あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげよう、努め励みなさい。

そして、この、「神が御言のために門を開いて下さって、わたしたちがキリストの奥義を語れるように(わたしは、実は、そのために獄につながれているのである)」という言葉は、パウロの牢の門が開かれて、外にいる人たちに証しの言葉を語れるようにとの願いも込められており、また私たちにとっても、御言葉を伝えることに立ちはだかる様々の障害が取り除かれるようにとの祈りも含まれるのではないかでしょうか。

「語るべきことをはっきりと語れるように」。このことを考えるにあたり、次の節に目を留めたいと思います。

4:5 今の時を生かして用い、そとの人に対して賢く行動しなさい。

4:6 いつも、塩で味つけられた、やさしい言葉を使いなさい。そうすれば、ひとりひとりに対してどう答えるべきか、わかるであろう。

今の時を生かして良きに用いる。この通り過ぎていく時に対して、時間は一秒一秒が同じ間隔の時間ですが、ある時間、あるタイミングにおいての時間は、その時の時間は、他の一秒一秒とは全然違う特別のタイミングであり、まさに「その時歴史は動いた」というような、格好のチャンスがあり、その時を逃さずに、一瞬のタイミングを逃さずに最善に用いるということが大切です。そのため祈りによる備えが意味を持つのだと思います。祈っていると、そのタイミングが分かります。祈っていると、今が時を生かせるチャンスだということが分かるのです。果報は寝て待てという言葉がありますが、チャンスと自分から引き寄せることはできませんが、整えられていると、これがチャンスだということが分かり、それを取り逃さずにキャッチすることが出来ます。これが祈りによる結果です。

「塩で味つけられた、優しい言葉」

塩はしょっぱく、漬物に入れれば防腐効果がありますが、梅干しなんかを想像しますと、塩で味つけられたのは優しい言葉というよりはきついアドバイスのようなものかなどと勝手に想像してしまいますが、あなたの言葉は塩が振られて、塩によって味が回復されたような恵みと親切、慈悲、憐れみ、情けの言葉であるようにと書かれているのが興味深いです。塩気のない食べ物とは、無味乾燥なものです。そこに塩が振られることにより、すべての味が際立つのです。命を得たように、それぞれの食材のおいしさが輝きます。そのように、わたくしたちの恵みと親切、慈悲、憐れみ、情けの言葉が必要なのです。世の中にはそれくらい、恵みと親切、慈悲、憐れみ、情けの言葉が欠乏し、愛の冷めた、無味乾燥な場所になりがちなのです。私たちにとってそのような世の中にあって、応えていく、応答していくということは、本当に、どんなにか必要不可欠なこととして求められているのでしょうか。そういうことを知ると、私たちは語るべきことを語ることが出来るようにとの祈りが深まります。そして準備がなされている人に、チャンスが訪れるのです。今の時を生かして、チャンスを逃さずに賢く生きるのです。

4:7 わたしの様子については、主にあって共に僕であり、また忠実に仕えている愛する兄弟テキコが、あなたがたにいっさいのことを報告するであろう。

4:8 わたしが彼をあなたがたのもとに送るのは、わたしたちの様子を知り、また彼によって心に励ましを受けるためなのである。

4:9 あなたがたのひとり、忠実な愛する兄弟オネシモをも、彼と共に送る。彼らはあなたがたに、こちらのいっさいの事情を知らせるであろう。

4:10 わたしと一緒に捕われの身となっているアリストルコと、バルナバのいとこマルコとが、あなたがたによろしくと言っている。このマルコについては、もし彼があなたがたのもとに行くなら、迎えてやるようにとのさしつけを、あなたがたはすでに受けているはずである。

4:11 また、ユストと呼ばれているイエスからもよろしく。割礼の者の中で、この三人だけが神の国のために働く同労者であって、わたしの慰めとなった者である。

心配して祈るあなた方にテキコを送り、彼がこちらの様子を語れば、事情が分かり、主の御名があがめられ、あなた方にとっても心の慰めになるだろう。

私と一緒に捕らわれているアリストルコ、マルコと、ユストと呼ばれているイエス、割礼を受けている者の中でこの三人だけが神の国のために働く同労者であって、わたしの慰めとなつた者だとパウロは語ります。

割礼を受けたユダヤ人たちはまだまだ敵対的で冷淡であったことが分かります。他ならぬパウロ自身も、大祭司からの派遣を受けてダマスコにてキリスト者を迫害するために向かっていたのですから。

それにしても私たちは何のために生き、何を語り、何を行うべきなのでしょうか。
コロサイ書では次のように語られていました。

3:15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。あなたがたが召されて一体となったのは、このためでもある。いつも感謝していなさい。

3:16 キリストの言葉を、あなたがたのうちに豊かに宿らせなさい。そして、知恵をつくして互に教えまた訓戒し、詩とさんびと靈の歌とによって、感謝して心から神をほめたたえなさい。

3:17 そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさい主イエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい。

「この三人だけが神の国のために働く同労者」。私たちもまた、主のお心を賢く悟った神の国ための同労者でありたいと願います。

ルカ 17:11 イエスはエルサレムへ行かれるとき、サマリヤとガリラヤとの間を通られた。

17:12 そして、ある村にはいられると、十人の重い皮膚病人に出会われたが、彼らは遠くの方で立ちとどまり、

17:13 声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と言った。

17:14 イエスは彼らをごらんになって、「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい」と言わされた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。

17:15 そのうちのひとりは、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめたたえながら帰ってきて、

17:16 イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。

17:17 イエスは彼にむかって言われた、「きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。

17:18 神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか」。

17:19 それから、その人に言われた、「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」。

17:20 神の国はいつ来るのかと、パリサイ人が尋ねたので、イエスは答えて言われた、「神の国は、見られるかたちで来るものではない。

17:21 また『見よ、ここにある』『あそこにある』などとも言えない。神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ」。

多くの人は人のことを思い、神のことを思っていないのです。しかし神様は私たちの戸の外に立ってたたいておられるのです。私たちが神様を迎えて、神様にお従いするときに神様の国は私たちの内に到来するのです。

4:7 わたしの様子については、主にあって共に僕であり、また忠実に仕えている愛する兄弟テキコが、あなたがたにいっさいのことを報告するであろう。

4:12 あなたがたのうちのひとり、キリスト・イエスの僕エパラスから、よろしく。彼はいつも、祈のうちであなたがたを覚え、あなたがたが全き人となり、神の御旨をことごとく確信して立つようにと、熱心に祈っている。

「神の御旨をことごとく確信して立つようにと、熱心に祈っている」。

私たちは真に神様の御心を悟る賢く忠実な僕でありたいと願います。そうあることが出来るようにと私たちは互いに祈りましょう。全き人として神の御旨をことごとく確信して立てるよう。完全、完璧、十全に成熟したもの、十分に成長したものとしてすべて神様のご意志、願い、望みの中に完成されるように。そこに至ることが出来るように、そこに一步でも近づくことが出来るように、熱心に、もがきながら、苦心しながら、戦うようにして、競技者が勝利できるように、最善を尽くしていつも祈りの中に進むのです。

神様の御国が来ますように。神様を畏れかしこむ謙遜な人たちの心の中に到来しますように。そこに真実のお交わりがあります。私はその真実なお交わりを韓国でたくさんいただいて帰ってまいりました。そしてこの教会の中にもその真実さを見ることが出来ます。

4:17 アルキポに、「主にあって受けた務をよく果すように」と伝えてほしい。

4:18 パウロ自身が、手づからこのあいさつを書く。わたしが獄につながれていることを、覚えていてほしい。恵みが、あなたがたと共にあるように。

「主にあって受けた務をよく果すように」、アーメン。

コロサイ 1:22 しかし今では、御子はその肉のからだにより、その死をとおして、あなたがたを神と和解させ、あなたがたを聖なる、傷のない、責められるところのない者として、みまえに立たせて下さったのである。

1:23 ただし、あなたがたは、ゆるぐことがなく、しっかりと信仰にふみとどまり、すでに聞いている福音の望みから移り行くことのないようにすべきである。この福音は、天の下にあるすべての造られたものに対して宣べ伝えられたものであって、それにこのパウロが奉仕しているのである。

1:24 今わたしは、あなたがたのための苦難を喜んで受けており、キリストのからだなる教会のために、キリストの苦しみのなお足りないところを、わたしの肉体をもって補っている。

1:25 わたしは、神の言を告げひろめる務を、あなたがたのために神から与えられているが、そのために教会に奉仕する者になっているのである。

1:26 その言の奥義は、代々にわたってこの世から隠されていたが、今や神の聖徒たちに明らかにされたのである。

1:27 神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである。

1:28 わたしたちはこのキリストを宣べ伝え、知恵をつくしてすべての人を訓戒し、また、すべての人を教えている。それは、彼らがキリストにあって全き者として立つようになるためである。

1:29 わたしはこのために、わたしのうちに力強く働いておられるかたの力により、苦闘しながら努力しているのである。

2:1 わたしが、あなたがたとラオデキヤにいる人たちのため、また、直接にはまだ会ったことのない人々のために、どんなに苦闘しているか、わかってもらいたい。

2:2 それは彼らが、心を励まされ、愛によって結び合わされ、豊かな理解力を十分に与えられ、神の奥義なるキリストを知るに至るためである。

2:3 キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いっさい隠されている。

ピリピ 1:12 さて、兄弟たちよ。わたしの身に起った事が、むしろ福音の前進に役立つようになったことを、あなたがたに知ってもらいたい。

1:13 すなわち、わたしが獄に捕われているのはキリストのためであることが、兵営全体に

もそのほかのすべての人々にも明らかになり、

1:14 そして兄弟たちのうち多くの者は、わたしの入獄によって主にある確信を得、恐れることなく、ますます勇敢に、神の言を語るようになった。

使徒 16:25 真夜中ごろ、パウロとシラスとは、神に祈り、さんびを歌いつづけたが、囚人たちは耳をすまして聞きいっていた。

16:26 ところが突然、大地震が起って、獄の土台が揺れ動き、戸は全部たちまち開いて、みんなの者の鎖が解けてしまった。

16:27 獄吏は目をさまし、獄の戸が開いてしまっているのを見て、囚人たちが逃げ出したものと思い、つるぎを抜いて自殺しかけた。

16:28 そこでパウロは大声をあげて言った、「自害してはいけない。われわれは皆ひとり残らず、ここにいる」。

16:29 すると、獄吏は、あかりを手に入れた上、獄に駆け込んできて、おののきながらパウロとシラスの前にひれ伏した。

16:30 それから、ふたりを外に連れ出して言った、「先生がた、わたしは救われるためには何をすべきでしょうか」。

16:31 ふたりが言った、「主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます」。

16:32 それから、彼とその家族一同とに、神の言を語って聞かせた。

16:33 彼は真夜中にもかかわらず、ふたりを引き取って、その打ち傷を洗ってやった。そして、その場で自分も家族も、ひとり残らずバプテスマを受け、

16:34 さらに、ふたりを自分の家に案内して食事のもてなしをし、神を信じる者となったことを、全家族と共に心から喜んだ。

ガラテヤ 4:12 兄弟たちよ。お願いする。どうか、わたしのようになってほしい。わたしも、あなたがたのようにならなければならぬのだから。

使徒 26:29 パウロが言った、「説くことが少しであろうと、多くであろうと、わたしが神に祈るのは、ただあなただけでなく、きょう、わたしの言葉を聞いた人もみな、わたしのようになって下さることです。このような鎖は別ですが」。

2 テモテ 2:8 ダビデの子孫として生れ、死人のうちからよみがえったイエス・キリストを、いつも思っていなさい。これがわたしの福音である。

2:9 この福音のために、わたしは悪者のように苦しめられ、ついに鎖につながれるに至った。しかし、神の言はつながれてはいない。

2:10 それだから、わたしは選ばれた人たちのために、いっさいのことを耐え忍ぶのである。

それは、彼らもキリスト・イエスによる救を受け、また、それと共に永遠の栄光を受けるためである。

2:11 次の言葉は確実である。「もしわたしたちが、彼と共に死んだなら、また彼と共に生きるであろう。

2:12 もし耐え忍ぶなら、彼と共に支配者となるであろう。もし彼を否むなら、彼もわたしたちを否むであろう。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。「時をよく用い、外部の人に対して賢くふるまいなさい。いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい。そうすれば、一人一人にどう答えるべきかが分かるでしょう」とのアドバイスをありがとうございます。私たちが今週もなくてはならない「地の塩世の光」として進めるようにお導きください。あらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン